

新聞を教材として活用するNIEで、いくつかの新聞を比べてみることはよい学習です。同じ出来事でも、新聞によって記事の扱いが大きく異なるからです。

これはスポーツ面でも同じです。プロ野球を例にとれば、多い日で1日6試合あるのに、試合ごとに記事の扱いに大きな差があります。同じ銘柄の新聞でも、関東地区と関西地区とではトップ記事になる試合が違います。それぞれの地域で読者の好きなチームの傾向が異なるからでしょう。夜のテレビニュースを元にして、どの試合が翌日のトップ記事になるか予想してみるのもおもしろいでしょう。新聞社が親会社になっている球団があることも影響していると言えそうです。

アマチュアスポーツの場合、ひとつの新聞だけが大きめに記事を書いているが、他紙では非常に扱いが小さかったり、記事が載っていないことがあります。その新聞社が主催や共催、後援になっているかどうかによるのです。なっている場合は大きく扱うことが多いようです。高校野球の春夏の甲子園大会や箱根駅伝のように、季節の風物詩として定着した大会は、主催かそうでないかにかかわらず、各紙とも大きく報道しますが、マイナーな大会ほどこの傾向ははっきりしています。

朝日新聞社が主催に名を連ねているのは、全国高校野球選手権大会(=夏の甲子園)、福岡国際マラソン選手権大会、横浜国際女子マラソン大会、全日本大学駅伝対校選手権大会などです。また、系列のテレビ局が同じく主催に加わり、放映することも多いです。どのテレビ局で放映されるかで、主催の新聞社もおおよそわかるわけです。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)